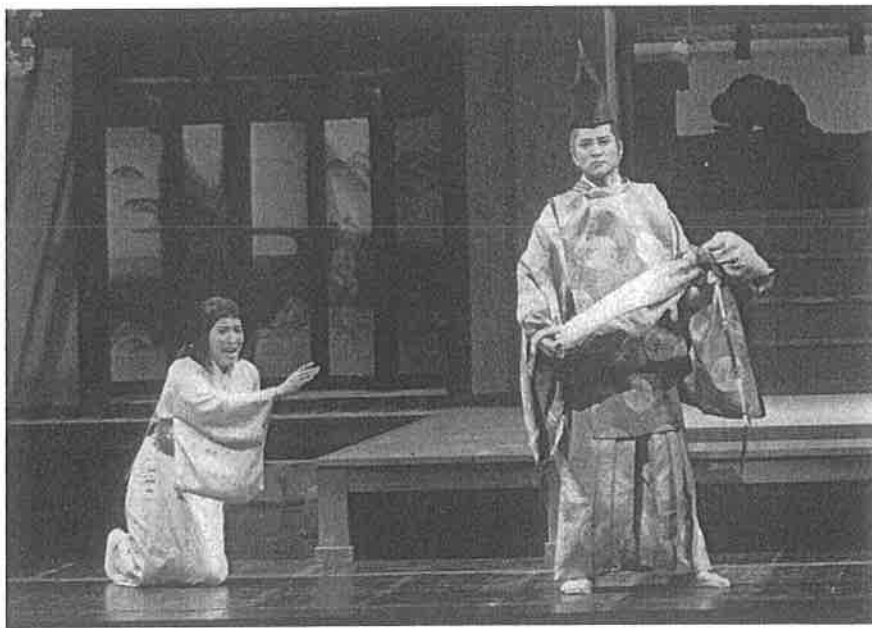


名古屋才ペラ協会

創立二十周年記念誌

二〇〇三年二月

名古屋オペラ協会 創立20周年記念誌



2003年2月
(平成15年2月)

創立二十周年を記念して

名古屋オペラ協会

会 長 横 井 園 生



昭和58年、日本オペラ上演を目的とした名古屋オペラ協会が誕生しました。オペラ「夕鶴」の初公演以来、協会は既に数十回に及ぶ舞台公演を消化してきました。私共のこうした長年の活動は全国のオペラ団体及び各種文化団体からその質の高さに於いて賞賛と表彰を受けるなど、広く社会の人々に評価されるところとなりました。幾多の困難を乗り越えてかゝる成果を成し遂げ得たのは、一同の日本オペラ推進への熱い思いと、強い目的意識があったからであります。この20年間に積み上げた苦労や努力を無にすることがあってはなりません。オペラ協会の未来はこの経験と成果の上に更に新しく築かれねばなりません。喜ばしい記念の年にあたり、協会の更なる飛躍と一同の新しい決意の首途となりますよう願ってやみません。

名古屋オペラ協会の礎と将来に想う

名古屋オペラ協会

運営委員長 小 林 満



名古屋オペラ協会の20年間は、あっと言う一瞬の出来事でした。そして、大きく長い道程でもありました。私にとっては後半生の最も激動の時ともなりました。

さて、〈オペラ協会とは何ぞや〉と問うてみて、やはり〈日本オペラの創造と振興〉という尊大な目標がなければ、これまでやってこれませんでした。

昨年の秋10月、協会創立20周年記念公演としてオペラ『新・琵琶白菊物語』が上演され、大成功を収めました。オペラはまさに総合芸術で美しい舞台でした。観客の入りはますますでしたが、その公演内容は私たちの想像をこえて、観客側の賛美の声があちこちから聞こえてきました。それは、新聞紙上や雑誌等の批評欄からお判りのように、一定の評価として充分理解されると思います。

〈日本のオペラ創り〉の大事業として、オペラ『新・琵琶白菊物語』は誕生しました。このオペラは、丁度5年前に創られたものを改編して〈全く新しいオペラに創り直そう〉というものでした。これを〈現在の協会員でやろう〉というものですからそれは大変な難苦行でした。改編の監修に指揮者の星出豊氏を立て、台本の組み立てから作曲の指示や出来上がった作品を演奏しながらの改編。その改編された楽譜を整理して提示する副指揮者の献身的な労苦。歌い手やピアニストもそれは必死でした。また、協会員男声の層の薄さから賛助者の起用も多く難航しました。しかし、合唱陣は準会員を中心によく応えて、臣下や女官、農民や群衆として支えてくれました。まさに協会員総出演の大イベントでした。でも、観客動員やチケット販売では、皆さん随分苦労されました。あの10年前の県芸術劇場開館こけら落としのオペラ『春琴抄』のように、主役級は500枚や600枚は一人で動員しました。協会も10年目でしかも本格的なオペラ劇場とあって、東京からも批評家が来名されました。これを機会に〈日本のオペラの創造と振興〉というスローガンを掲げている名古屋オペラ協会の存在が全国的になったわけです。現在は状況がすっかり変わっています。

協会の創立者の一人である横井先生は13年前に現役を引退され、今は会長です。当時、東京の大賀先生も創立者の一人で、時々日本語の指導や相談にのって頂いております。私も2年目から運営委員となり、事務局長や副委員長をしまいましたが、その創立者方の献身と強い信念があったからこそ現在の名古屋オペラ協会が存在しているのだと思います。

〈日本オペラの創造〉も『新・琵琶白菊物語』が〈愛知発信のオペラ〉として誕生しました。この20年間における歴史の意味の重さを感じながら、私たちはこれから10年の将来に向けてどう進むのか。来年度は10月にオペラ『浅茅ガ宿』と決まっております。その次も候補が2、3上がっておりますが、〈日本オペラの創造と振興〉という古くて新しい目的は微動だに変わっておりません。今後共、皆さま方のご支援とご鞭撻をお願いいたします。

祝 辞

愛知県知事 神 田 真 秋



このたび、名古屋オペラ協会が創立20周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴協会は、昭和57年に設立されて以来、日本オペラの創造と振興を基本理念に、日本の歴史や文化から題材をとり、美しい日本のこころと芸術性に富んだオペラ作りに一貫して取り組まれるとともに、オペラ歌手の育成や青少年に対する音楽普及にも力を尽くされるなど、長きにわたり活発な活動を続けてこられました。このような貴協会の活動は、本県の文化振興にとりまして大変意義深いものであり、役員並びに会員の方々をはじめ、関係者の皆様のこれまでの並々な御努力に対しまして、深甚なる敬意を表します。

物質的な豊かさだけでなく、ゆとりや潤いなど心の満足感が求められる今日、私たちの心を豊かにする芸術文化に対する関心は高まっています。

こうした中で、オペラファンはもとより、オペラに馴染みの薄い方にも、その素晴らしさや楽しさを鑑賞できる日本の創作オペラの上演を着実に続けられ、愛知のオペラ集団として確かな地位を築かれている貴協会の果たす役割は、ますます大きくなっていると存じます。

貴協会には、創立20周年を機にさらに飛躍され、その持ち味を生かし多彩な活動を展開されますことを御期待いたしますとともに、今後ともオペラを通じまして、本県の芸術文化の振興にお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、名古屋オペラ協会のますますの御発展と皆様の御活躍をお祈り申し上げまして、お祝いのことばといたします。

お 祝 い の こ と ば

名古屋市長 松 原 武 久



このたび、名古屋オペラ協会におかれましては、創立二十周年を迎えられ心からお喜び申し上げます。貴協会のたゆまぬ努力により、自他ともに認められる地位と名声を確立されたことに対して深く敬意を表するものです。

貴協会は、日本におけるオペラの未知の分野に挑戦され、日本独特のオペラの境地を開拓し、成功されているとお聞きしております。また名古屋における音楽芸術の普及向上と、芸術文化の発展に寄与する人材の育成に貢献してこられました。これも横井園生先生はじめ貴協会の皆様方の一方ならぬ努力の賜物であり、心から敬意を表する次第でございます。

日本になじんだ日本語のオペラづくりは、音楽の面でもまた演技の面でも困難が多かろうと存じます。日本においてオペラがこれだけ愛されるようになったことは貴協会の存在なくしては、語れないのではないかと存じます。貴協会の公演は国内のみならず、海外にも深い感銘を与えているところでございます。

名古屋市では、現在、文化の香り高い風格あるまちづくりをすすめ、新たな文化の創造に努めております。

皆様には、二十周年を節目に、さらに精進を重ねられ、本市の文化の振興のために今後ともお力添えいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、名古屋オペラ協会の皆様方の今後のますますのご活躍を祈念いたしまして、私のお祝いのことばといたします。

名古屋オペラ協会創立20周年によせて

財団法人愛知県文化振興事業団

理事長 中 島 靖 二



このたび名古屋オペラ協会におかれましては、創立20周年を迎えられました。

心よりお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和58年の創立以来、一貫して古くからの日本の歴史や文化に根差した題材を基に、数々の素晴らしい創作オペラを上演してこられました。こうした取組みを通して地元オペラ界発展のためにご貢献されておりますことに対し、深く敬意と感謝の意を表する

次第であります。

愛知芸術文化センターは平成4年度に開館しましたが、以来、私ども愛知県文化振興事業団の事業にも格別のご理解を賜り、開館記念事業としての「春琴抄」をはじめ、平成6年度には「袈裟と盛遠」、平成8年度には「額田女王」、平成10年度には「天守物語」、平成12年度は「祝い歌が流れる夜に」、そして今年度は「新・琵琶白菊物語」を次々にご公演いただき、多くのオペラファンに喜んでいただきましたことは誠に感謝に堪えません。

昨年12月には、文化政策の根拠となる文化芸術振興基本法が制定され、国の文化芸術への新たな政策が期待されるところでございます。

また、愛知県では、平成17年に環境をテーマにした万博「愛・地球博」が開催されます。このテーマからも、人間が自然と調和して人間らしく文化的に生きていくことの大切さが伺われ、文化・芸術の役割もますます重要になってくると思われます。

貴団体におかれましても、この20周年を機にますます活発な活動を続けられ、この地域の音楽を通じた文化の発展に更なる刺激を与えられることを期待いたしましてお祝いのことばといたします。

名古屋オペラ協会創立20周年を記念して

財団法人名古屋市文化振興事業団

理事長 競 和 巳



このたび名古屋オペラ協会が創立20周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

横井園生先生を中心に昭和58年に設立され、第1回のオペラ「夕鶴」を上演以来、毎年定期公演を開催し、特に日本オペラの上演にたいへん意欲的な取り組みをされていらっしゃいます。

こうした活動により、オペラに対する人々の関心を高めるとともに、オペラに関する知識、技術の向上、人材育成にも多大な功績をあげられており、音楽芸術の普及向上に向けてたゆまぬ努力をしてこられましたことには、深く敬意を表するところでございます。

また、今年10月に創立20周年記念公演として上演された「新・琵琶白菊物語」は、5年前に名古屋市民芸術祭主催事業として好評を博した「琵琶白菊物語」を、新しいオペラ作品として改編された意欲作で、記念公演に相応しい感動的な素晴らしい舞台を創り上げられました。

私ども名古屋市文化振興事業団におきましては、個性豊かな魅力ある市民文化の創造のために様々な事業を展開しております。その中でも、オペラをはじめとする音楽関係の事業については毎年継続的に取り組んでいるところであります。

どうか今後とも、名古屋の芸術文化の普及、発展の担い手として、より一層のお力添えをお願いいたします。

最後になりましたが、小林満運営委員長をはじめとする会員の皆様のますますのご活躍とご発展をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

名古屋オペラ協会創立20周年によせて

指揮者 星 出 豊



オペラ協会創立20周年おめでとうございます。

17年余りのお付き合いの中で、特に最初の「修禅寺物語」そして20周年記念の「新・琵琶白菊物語」。オペラ協会が、節目として、比較的大きな作品と取り組む時におよび頂き、私としても、大変幸せに思っております。特に故栗國安彦氏と行った「祝い歌の流れる夜に」。我が親友と共に言い争いをしながら日本オペラを創った喜び、そして、今は亡き友を思い、懐かしさと、寂しさと、そんなことを感じる年に、私も何時の間にかなくなってしまったようです。時代が流れていく中、横井先生の思いを、そのまま見事に受け継がれて、日一日と進歩されていく会員の皆様方の努力にただただ、感心いたしております。私個人としても、故武智鉄二先生、日本オペラ界の重鎮、栗山昌良先生と、ご一緒させていただいた多くの作品。特に愛知県芸術劇場が誕生した時に、栗山先生と創った「春琴抄」はとても楽しかった仕事のひとつとして頭に残っております。栗山先生の偉大さを目の前で見ていただき、稽古の後、先生をお誘いして、ご一緒に美味しいお酒をいただきましたが、ふと、稽古の時の感動が頭をよぎり、一筋の涙が、杯の中に落ちたのを今でも忘れません。仕事をしながら勉強させていただいた思い出が数多く残っております。中堅で活躍なさっておられ、今回の記念公演でご一緒した、直井研二さん。本当に演出家に恵まれ、あわせて、皆様の努力とで、素晴らしいオペラ公演が出来たことを、大変嬉しく思っています。そして、欠かすことの出来ないのが、大賀寛先生のお力だと思います。日本オペラをここまで育てられたのは、先生のお力であり、横井先生と共に歩かれ、この会とは、切っても切れない恩人であり、日本オペラ界では忘れてはならない先生であられます。今までの日本オペラ発展のご努力のなかには大変なご苦労があったと、お察し申し上げます。心からの敬意を表さずにはおられません。すなわち、オペラ公演を続けるということは、どんなに頑張っても一人で出来るものではなくく< OPERA> そのものの意味、多くの専門の方が集まり仕上げられた作品。そういう意味でも、素晴らしいスタッフの協力があってこそ、良い作品が創り上げられたことを忘れてはならないと思います。

これから若い方達が今まで先輩の創られたこの伝統と、蓄えられた芸術の心を忘れずに、これから益々のご発展をお祈り申し上げますと共に、ご一緒していただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

名古屋市芸術奨励賞

名古屋市は芸術賞を設け 市民の
こころの糧となるべき芸術の伸展
をねがっております。
あなたがたのためみなき精進努力
による清新な業績を讃え さらに
大いなる期待と希望を託し芸術奨
励賞を贈ります。

平成12年 2 月14日

名古屋オペラ協会 様

名古屋市長 松原武久



なごや芸術文化に貢献



絵画教室で指導する丹羽和子さん

藝術特賞

「名古屋をとり守る」

西川あやめん(一)中
区
西川流 代官元西川鯉
三郎師に手ほどきを受け、
一四八八(昭和十三年)
に西川流名取となる。西
川から文化を移動し、重
慶の師と名を相傳へ、名
譽の太極拳の師範を始め
る。夫隨て主宰する「鯉水
一人獨創前について、

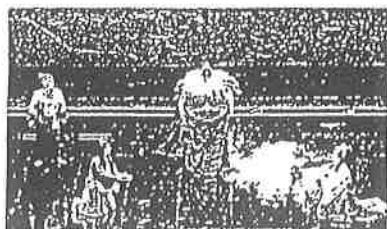


「名古屋をどり」を披露する
西川あやめさん＝昨年9月

多摩川市は三十一日、平成十年度の市情概況の発表を終了した。毎年行われる「多摩川市文化の振興」の取組をたてた「三都府構想」には、日本製紙、西川おめさん、国産の動物やさん選抜した、手紙を創造活動で、今後三都府が期待する「三都府構想」には、脚本、演出家の村松と、版元の西村正幸と、柳楽の野村祐とこの三人を吉原スラ協会が扶けた。据置式は十四日午後五時から、中村文弘一の銘グランドホテルで開かれ、受賞者の領状紹介する。

女性画家のリーダー

区松岡子
山羽和子(女)・三浦瑞穂
東京女子美術専門学校校長
(現東京女子大学)を卒業後、一九四九年に新聞記者として入社して初入社。以後随分と出世して、新報社の会長の娘とも交際し、新聞企業の関係はますます厚くなるが、米國やカナダ、東京、名古屋でグループ旅行補助員、新聞や雑誌にエッセイを書き、探検も連発している。戦後直後から三十年以上経つた現在、各局を中心とする女性団体のリーダー格の存在になっている。



オペラ「天守物語」を公演する
名古屋オペラ協会のメンバー

藝術獎勵賞

市芸術賞の
受賞者決定

全國に知られるオペラ上演活動名古屋オペラ協会事務所瑞穂区瑞穂通五八年に設立され、第一回公演「夕鶴」で旗揚げ。以来「日本オペラの創造と振興」を奉徳とし、毎年日本オペラを上演している。九年、愛知芸術文化センター開館記念事業で「曙野抄」を演じ、全国に知られやうになった。八八年度の県芸術文化振興文化賞を授賞している。

振興」を基本理念に、毎年日本オペラを上演している。九年、愛知芸術文化センター開館記念事業で「管琴抄」を上演し、全国に知られるようになった。八八年度の県芸術文化奨励賞を受賞している。

年 表

年 度	日 本 オ ペ ラ シ リ ー ズ	公演回数
1998 平成 10 年	No.16 愛知県文化振興事業団第83回公演 「天守物語」(泉 鏡花 原作・金窪周作 台本・水野修孝 作曲) 指揮：星出 豊 演出：栗山昌良 1999年2月27日(土)・28日(日) 於:愛知県芸術劇場大ホール	2 回
1999 平成 11 年	No.17 名古屋市民芸術祭'99主催事業 「夕 鶴」(木下順二 原作 台本・團 伊玖磨 作曲) 指揮：永友博信 演出：竹内敏晴 1999年10月30日(土)・31日(日) 於:名古屋市民芸術創造センター	2 回
2000 平成 12 年	No.18 愛知県文化振興事業団第104回公演 「祝い歌が流れる夜に」(菊村 到 原作・原 嘉壽子 台本 作曲) 指揮：古谷誠一 演出：直井研二 2000年10月29日(日) 昼の部・夜の部 於:愛知県芸術劇場大ホール	2 回
2001 平成 13 年	No.19 名古屋市民芸術祭'01主催事業 「黒 塚」(立花車扇 改訂台本・牧野由多可 作曲) 指揮：古谷誠一 演出：立花車扇 2001年10月30日(火)・31日(水) 於:名古屋能楽堂	2 回
2002 平成 14 年	名古屋オペラ協会創立20周年記念公演 No.20 愛知県文化振興事業団第140回公演 「新・琵琶白菊物語」全二幕改訂初演(森 治美 台本・川島 博 作曲) 監修・指揮：星出 豊 演出：直井研二 総監督：小林 満 2002年10月26日(土)・27日(日) 於:愛知県芸術劇場大ホール	2 回

各公演キャスト、スタッフ名は別紙掲載

年 度	日 本 オ ペ ラ シ リ ー ズ 以 外 の 公 演	
平成 10 年 (9 年度)	名古屋オペラ協会創立15周年記念公演 名古屋オペラ協会 合唱団演奏会 スターバトマーテル (ペルゴレージ) レクイエム (ヴェルディ) 1998年1月30日(金) 於：愛知県芸術劇場コンサートホール	
平成 11 年	バロックオペラ&オラトリオ メサイア (ヘンデル) ダイドとイニアス (パーセル) 1999年8月1日(日) 於：しらかわホール 指揮：永友博信 演奏：21世紀オーケストラ 名古屋オペラ協会室内オペラシリーズNo.4 釣女 (近藤 圭) と河童譚 (石桁真礼生) 2000年2月24日(木)・25(金) 於：名古屋能楽堂 指揮：古谷誠一 演出：佐藤友彦	《出 演 者》 大野賀久子 藤本 圭子 天野 久美 中須賀悦子 千田 恭子 鎗木 勇樹 水谷 朋子 近藤 由香 水野妃佐子 吉川友吏江 日高 義啓 〈語り〉長柄 孝彦 〈賛助〉林 剛一 神田 豊壽 水谷 朋子 内田由美子 野村 富昭 須藤 倫代 村松 由理 佐藤恵美子 吉田 弘子 東 えり 広田 昌代 高橋 直美 鈴木 素子 水野佑扶子 鷺見 美保 〈賛助〉米丸 史朗 滝澤 博 加賀 誠二
平成 12 年	名古屋オペラ協会準会員による イタリア歌曲の夕べ ロッシーニ、ドニゼッティ、レスピーギ、ヴェルディ マスカーニ、トスティ、デンツァらの作品より 2000年12月22日(金) 於：名古屋市西文化小劇場	《出 演 者》 市之宮淳子 村松 由理 三浦 葉月 広田 昌代 〈特別〉鎗木 勇樹 永友 博信
平成 13 年	名古屋市子どものための巡回劇場 「セロ弾きのゴーシュ」(清水 脩) 2001年8月21・22・23・24日 於：中区役所ホール、名東・中村・緑文化小劇場 各会場 午前・午後2回公演 (台風接近で3公演休演) 音楽監督：永友博信 演出：小沢 寛 名古屋オペラ協会準会員による室内オペラ 新構成 歌劇「フィガロの結婚」 2002年1月13日(日) 昼・夜の部 2回公演 於：しらかわホール 指揮：永友博信 演奏：モーツァルト室内管弦楽団	《出 演 者》 東 えり 吉川友吏江 古田 直子 近藤 由香 青木なつ恵 高橋 直美 ほか研究生も共演 〈賛助〉ピアノ：岩野めぐみ チェロ：鈴木 康史 語 り：小林万里子 子 役：少年少女合唱団 《出 演 者》 青木なつ恵 広田 昌代 宮崎 正枝 山内 雪乃 市之宮淳子 村松 由理 高橋 直美 吉川友吏江 水野 智美 〈賛助〉林 剛市 森山 孝光 出来 秀一 栗田 滋勇 〈語り〉鎗木 勇樹 内田由美子
平成 14 年	創立20周年 記念公演 ガラ・コンサート 2003年1月19日(日) 午後6時 1回公演 於：愛知県芸術劇場 指揮：牧村邦彦 演奏：セントラル愛知交響楽団 名古屋市子どものための巡回劇場 セロ弾きのゴーシュ(清水 脩) 2003年3月25・26・28・29日 於：西、守山、熱田、天白文化小劇場 各会場 午前・午後2回公演 音楽監督：永友博信 演出：堀口文成	《出 演 者》 五十君綾子 水野妃佐子 小笠原由香 長江希代子 石栗 須代 美口 啓子 竹内 久代 五島由美子 水谷 朋子 古田 直子 加藤恵利子 鎗木 勇樹 藤本 圭子 中須賀悦子 大野賀久子 永友 博信 松波千津子 水谷 朋子 青木なつ恵 古田 直子 吉田 友紀 竹内 久恵 吉川友吏江 広田 昌代 内田由美子 近藤 由香 水野 智美 米丸 史朗 (賛助) ピアノ：岩野めぐみ チェロ：鈴木 康史 語 り：松本 朋子 子 役：少年少女合唱団

日本歌曲の夕べ	研究生の修了公演	公演年度
第11回「準会員による日本歌曲の夕べ」 <小林秀雄作品をめぐって> 1998年 5 月29日(金) 於：名古屋市芸術創造センター 出演者 野村 弥生 吉田 広子 黄池 貴子 水野紀佐子 美口 啓子 (紫のドレス) 東 えり 古田 直子 青木なつ恵 近藤 由香 鈴木 智恵 近藤亜由美 吉川友吏江 鎬木 勇樹(賛助)ほか	14期「ディドとエネアス」 1998年 3 月28日(土) 於：名古屋市芸術創造センター 作曲：H. パーセル 指揮：永友博信 演出：太田幸則	平成 9 年
第12回「準会員による日本歌曲の夕べ」 <四季をうたう> 山田耕柝、團伊玖磨、中田喜直、 信時 潔、小林秀雄の作品 1998年11月 3 日(火・祝) 於：電気文化会館 ザ・コンサートホール 出演者 広田 昌代 吉川友吏江 古井美恵子 石栗 須代 村松 由理 高橋 直美 須藤 倫代	15期「ディドとエネアス」 1999年 3 月28日(日) 於：名古屋市西文化小劇場 作曲：H. パーセル 指揮：永友博信 演出：太田幸則	平成 10 年
第13回「準会員による日本歌曲の夕べ」 <中田喜直の世界> 2000年 5 月10日(水) 於：電気文化会館 ザ・コンサートホール 出演者 宮川 佳子 沢田なつ代 吉田 友紀 美口 啓子 高橋 直美 米丸 史朗 石栗 須代	16期「ニーナ」 2000年 3 月18日(土) 於：名古屋市守山文化小劇場 作曲：パイプイエッロ 構成・指揮：永友博信 演出：太田幸則	平成 11 年
第14回「準会員による日本歌曲の夕べ」 <團 伊玖磨の世界> 2001年 1 月25日(木) 於：電気文化会館 ザ・コンサートホール 出演者 吉田 友紀 高橋 直美 神野 英世 美口 啓子 石栗 須代 西脇ひろみ	17期「ニーナ」 2001年 3 月31日(土) 於：名古屋市守山文化小劇場 作曲：パイプイエッロ 構成・指揮：永友博信	平成 12 年
第15回「準会員による日本歌曲の夕べ」 <山田耕柝の世界> 2001年 9 月15日(土) 於：名古屋市守山文化小劇場 出演者 沢田なつ代 小幡 眞穂 高橋 直美 西脇ひろみ 吉川友吏江 神野 英世 長江希代子	18期「ディドとエネアス」 2002年 3 月21日(木・祝) 於：名古屋市芸術創造センター (2 回公演) 作曲：H. パーセル 構成・指揮：永友博信	平成 13 年
第16回「準会員による日本歌曲の夕べ」 <橋本國彦の世界> 2002年 8 月31日(土) 於：名古屋市守山文化小劇場 出演者 水野 智美 小幡 眞穂 五十君綾子 東 えり 神野 英世 伊藤 晶子(賛助)	19期「ヘンゼルとグレーテル」 2003年 3 月 9 日(日) 於：名古屋市西文化小劇場 (2 回公演) 作曲：E. フンパーディンク 指揮：永友博信 演出：太田幸則	平成 14 年

1998 (平成10) 年度

2月27日

2月28日

日本オペラシリーズ No.16

愛知県文化振興事業団83回公演'98

会場：愛知県芸術劇場大ホール

オペラ『天守物語』

原作：泉 鏡花

台本：金窪周作

作曲：水野修孝

総監督：横井園生



《スタッフ》

指揮	星出 豊
演出	栗山 昌良
美術	石黒 紀夫
音響	仙頭 聡
照明	成瀬 一裕
舞台監督	中村 眞理
衣裳	緒方規矩子
振付け	藤間藤三郎
	樋本 英一
副指揮	須藤 桂司
	吉川 朗

舞台装置・道具関係：東宝舞台、若尾綜合舞台、藤浪小道具、ステージクルーBAU

衣裳・かつら関係：東京衣裳、丸善かつら、(株)クラント

演奏：セントラル愛知交響楽団 能管＝竹市 学 鼓＝高橋邦明

《キャスト》

		2月27日		2月28日	
富 姫		松 波 千 津 子		藤 本 圭 子	
図 書 之 助		長 柄 孝 彦		鎬 木 勇 樹	
亀 姫		竹 内 久 恵		盛 か お る	
薄		中 須 賀 悦 子		千 田 恭 子	
朱 之 盤 坊		澤 脇 達 晴		小 原 恒 久 子	
舌 長 姥		江 崎 裕 子		江 崎 裕 子	
桃 六 花		小 原 恒 久 子		澤 脇 達 晴	
女 郎 葛 萩		内 田 由 美 子		内 田 由 美 子	
		河 合 玲 子		河 合 玲 子	
桔 梗 子		水 谷 朋 子		水 谷 朋 子	
撫		東 え り		広 田 昌 代 子	
		村 松 由 理		鈴 木 素 子	
《賛助出演》					
城 主		川 口 豊		川 口 豊	
修 理		加 賀 誠 二		桜 井 重 仁	
九 平 子		滝 沢 博		滝 沢 博	
獅 子		曾 根 康 嗣		曾 根 康 嗣	
		瀬 戸 純 哉		瀬 戸 純 哉	
練習ピアノ		伊 藤 眞 理	守 光 明 子	吉 田 雅 博	
合 唱		名古屋オペラ協会合唱団24名、名古屋少年少女合唱団			

1999 (平成11) 年度

10月30日

10月31日

日本オペラシリーズ No.17

名古屋市民芸術祭'99主催事業

会場：名古屋市芸術創造センター

オペラ『夕鶴』

原作・台本：木下順二

作曲：團 伊玖磨

総監督：小林 満



《スタッフ》

指揮	永友 博信
演出	竹内 敏晴
美術	水谷 雄司
音響	仙頭 聡
照明	古川 靖
舞台監督	太田 幸則
衣裳	幅上 智里
かつら	松原 園枝
メイク	真津田美沙子
着付け	矢吹 弘子

舞台装置・道具関係：若尾綜合舞台

演奏：21世紀オーケストラ

《キャスト》

10月30日

10月31日

つう

水谷 朋子

盛 かおる

与ひょう

長柄 孝彦

鎗木 勇樹

《賛助出演》

運づ

米丸 史朗

滝沢 博

惣ど

川口 豊

神谷 敏男

子供たち

名古屋少年少女合唱団

合唱指導

谷 鈴代

練習ピアノ

近藤 茂之・伊與木 慶子

2000 (平成12) 年度

10月29日
昼・夜2回公演

日本オペラシリーズ No.18
愛知県文化振興事業団104回公演'99
会場：愛知県芸術劇場大ホール

オペラ 『祝い歌が流れる夜に』

原作：菊村 到 台本・作曲：原 嘉壽子 監修：大賀 寛 総監督：小林 満



《スタッフ》

指揮	古谷 誠一
演出	直井 研二
同助手	岡田 直子
美術	伊藤 三朗
音響	上野 慶
照明	古川 靖
舞台監督	太田 幸則
衣裳	坂 治栄
メイク	真津田美沙子
着付け	矢吹 弘子
副指揮	吉川 朗

舞台装置・道具関係：ステージクラフト・サブ
演奏：セントラル愛知交響楽団 尺八＝岩田恭彦

《キャスト》

	昼の部	夜の部
金沢公一郎	砂田 直規	川口 豊
その妻・艶子	中須賀悦子	河合 玲子
長男・謙一	長柄 孝彦	滝沢 博
その妻・雅江	水谷 朋子	竹内 久恵
長女・みどり	須藤 倫代	吉田 友紀
女中・しま	松波千津子	千田 恭子
その息子・博	松下 伸也	駒田 敏章
中川 義男	小山陽二郎	鎗木 勇樹
植村 正造	中野 嘉章	米丸 史朗
その妻・靖子	仙藤 恵子	広田 昌代
しまの母親	水野妃佐子	吉川友吏江
警官、軍人役	金子 武志	ほか 4 名
幫 間	立花 車扇・立花志津彦	
練習ピアノ	岩野めぐみ	早瀬 洋子 西尾 由希

2001 (平成13) 年度

10月30日

10月31日

日本オペラシリーズ No.19
名古屋市民芸術祭2001主催事業
会場：名古屋能楽堂

オペラ『黒塚』

台本：立花車扇 作曲：牧野由多可 監修：大賀 寛 総監督：小林 満



《スタッフ》

指揮	古谷 誠一
演出	立花 車扇
同助手	岡田 直子
美術	滝 善光
照明	原 昌男
音響	幾田 雅子
舞台監督	太田 幸則
衣裳	日本演劇衣裳
かつら	奥村かつら
振付け	立花志津彦
副指揮	吉川 朗

舞台装置・道具関係：若尾綜合舞台、藤浪小道具

演奏：名古屋オペラ協会アンサンブル <シンセサイザー>早瀬洋子
<尺八> 岩田恭彦 <太棹三味線> 工藤哲子 <鼓> 多田恵子

《キャスト》

第一部 <舞踊>.....立花 車扇 <解説>..... 飯塚 恵理人

		10月30日	10月31日
第二部	鬼 女	藤本 圭子	竹内 久恵
	祐 慶	澤脇 達晴	小原 恒久
	山 伏	中野 嘉章	中野 嘉章
	能 力	野村 富昭	小山陽二郎
	助 演	立花志津彦	立花志津彦
	《地謡》	水谷 朋子、内田由美子、吉田 直子、 高橋 直美、水野妃佐子、広田 昌代、 宮崎 智永、金子 武志、加藤 利幸、 奥村 成史	
	練習ピアノ	早瀬 洋子 西尾 由希、江上 敦子	

2002 (平成14) 年度

10月26日

10月27日

日本オペラシリーズ No.20
愛知県文化振興事業団140回公演
会場：愛知県芸術劇場大ホール

オペラ 『新・琵琶白菊物語』

台本：森 治美 作曲：川島 博 監修：星出 豊 総監督：小林 満



《スタッフ》

指揮	星出 豊
演出	直井 研二
同助手	岡田 直子
美術監督	川口 直次
音 響	仙頭 聡
照 明	奥畑 康夫
舞台監督	太田 幸則
衣裳・小道具	松竹衣装(株)
かつら	(株)山田かつら
メイク	きとうせい
副指揮	倉知 竜也
合唱指導	永友 博信

舞台装置：(株)CSS総合舞台 (株)若尾総合舞台

演 奏：NPO法人小牧市交響楽団 琵琶＝北川 鶴昇

《キャスト》

	10月26日	10月27日
槐	松波 千津子	盛 かおる
藤 原 師 長	長柄 孝彦	鎗木 勇樹
小 夜	藤本 圭子	内田 由美子
清 蔵	小山 陽二郎	橋本 泰介
忠 良・清 盛	川瀬 信一郎	松下 伸也
横 江	神谷 敏男	中野 嘉章
その妻・禎	中須賀 悦子	河合 玲子
宗 覚 坊	小柴 和浩	小柴 和浩
使 者	土屋 雅人	土屋 雅人
白 拍 子 菊	竹内 久恵	竹内 久恵
	宮崎 智永 藤本 淳司 加藤 利幸 山本 洋輔 高橋 敏明	
村 人 た ち	吉原 広樹 森 敦 金子 武志 鈴木 誠	
(合 唱)	小笠原由香 広田 昌代 五十君綾子 宇野ちさと 水野佑扶子	
	兼松麻理子 加藤恵利子 柴山 美里 松本 朋子 ほか研究生	
子 ど も た ち	名古屋少年少女合唱団	
練 習 ピ ア ノ	岩野めぐみ 早瀬 洋子 西尾 由希 江上敦子	

名古屋オペラ協会創立20周年記念誌

印 刷 平成15年 2 月 1 日

発 行 平成15年 2 月10日

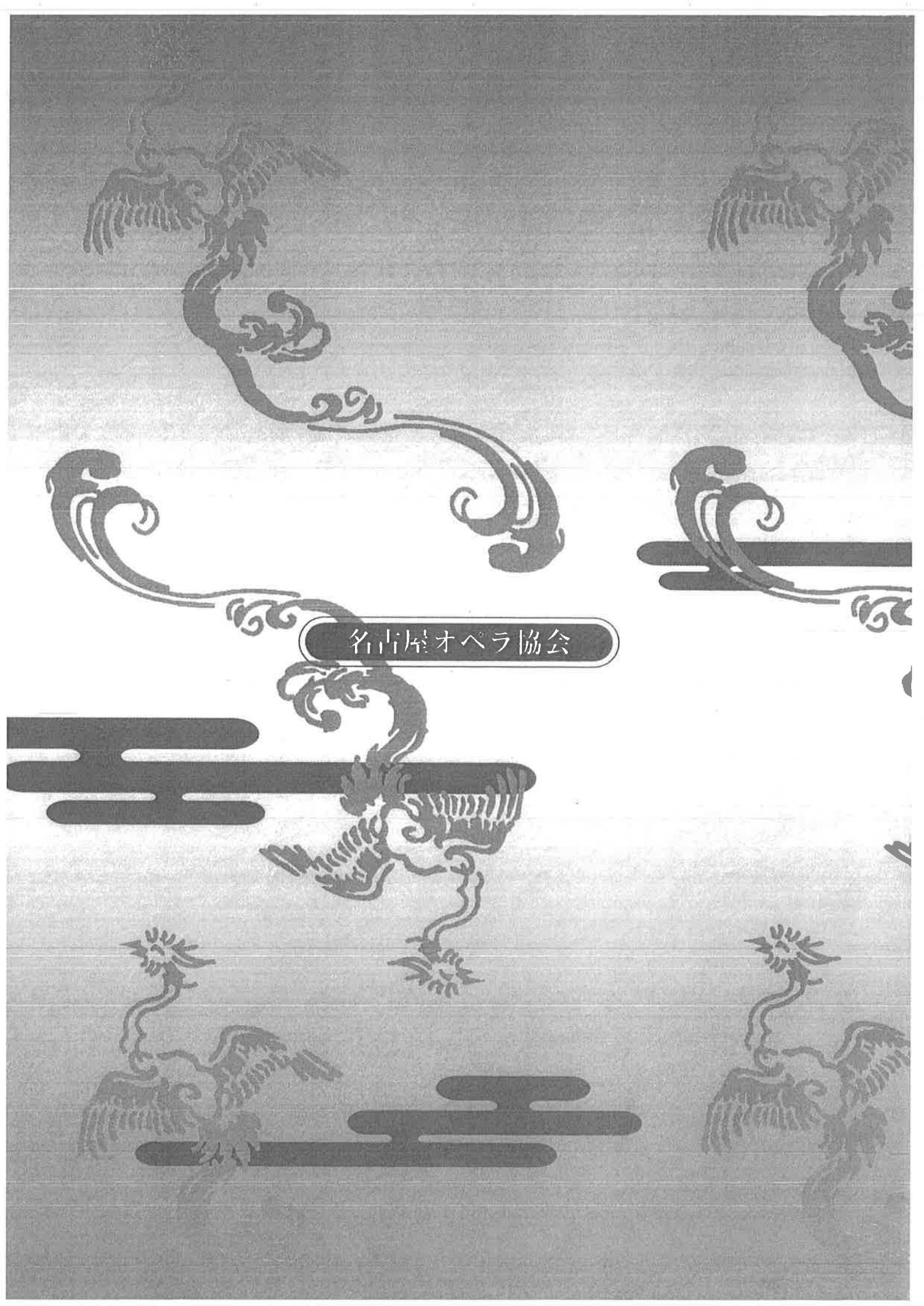
発行者 名古屋オペラ協会

〒467 名古屋瑞穂区瑞穂通り5-16

スタジオあい 名古屋オペラ協会事務局

TEL 052-851-2089 FAX 052-851-2089

印 刷 (株) 言 文 社



名古屋オペラ協会